

科目名	教育方法論						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	下川 武志		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	幼稚園教諭として幼稚園に3年間、幼保連携型認定こども園に1年間勤務		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	教育とは、子どもが「知りたい」「学びたい」という欲求を触発し、それを教師が援助したり系統立てることにより子どもの発達を促す営みである。この授業においては、教育の方法に関する理論的知識の習得、とりわけ乳幼児期の教育の方法に関する基本原理を理解することを第一義的な目標とし、実際の保育現場で実践を構築できる力を醸成していく。本科目は教育原理で学んだ教育についての原則をベースに、特に幼児教育における教育の方法について考える科目である。(近畿大学科目終末試験を前期修了後、受験する)						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	○				幼児期における遊びの役割と重要性を理解し、説明することができる。	
	◎	○				幼児教育における5領域について、保育をする上でどのような視点となるかを簡単に述べることができる。	
	◎	○				子どもの遊びにおいて保育者が果たす役割について、説明することができる。	
	◎	○				幼稚園教育と小学校教育の違いについて、例を挙げながら説明することができる。	
	◎	○				子どもの周りに生起する問題について関心をもち、見解を述べるができる。	
			◎	○			地域資源を生かしながら、園外での活動を考え実践することができる。
	◎	○					保育におけるカウンセリングマインドとは何か、簡単に説明することができる。
テキスト・教材 参考図書	北大路書房版『幼児教育の方法』～保育の内容・方法を知る～ 小田 豊・青井 倫子 編著 2019年 フレーベル館 幼稚園教育要領解説書 ※そのほか適宜、教員作成資料を配布する。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション、子どもにとって遊びとは			テキストP1～VIIIまでを読んでおく。		
	2	幼児教育と保育、環境を通しての教育			テキストP2～22までを読んでおく。		
	3	保育内容 5領域について			幼稚園教育要領解説書P26～49までを読んでおく。		
	4	遊びの重要性について			テキストP24～35までを読んでおく。		
	5	保育者のさまざまな役割、レポートを作成することについて			テキストP35～45までを読んでおく。		
	6	保育者の援助の方向性、レポート作成			テキストP46～63までを読んでおく。		
	7	方法としてのさまざまな保育形態、レポート作成			テキストP66～80までを読んでおく。		
	8	保育における評価、レポート作成			テキストP82～97までを読んでおく。		
	9	グループワーク1			実習を伴うので、動きやすい服装・靴の準備をする。		
	10	幼児期の教育と小学校教育の連関			テキストP100～126までを読んでおく。		
	11	保護者とのパートナーシップ			テキストP128～134までを読んでおく。		
	12	グループワーク2			実習を伴うので、動きやすい服装・靴の準備をする。		
	13	地域の資源や教育力を活かす保育			テキストP134～142までを読んでおく。		
	14	保育におけるカウンセリングマインド、レポート作成			テキストP144～152までを読んでおく。		
	15	レポート作成			レポート課題に沿って必要な情報を整理して、持参する。(下書き原稿、参考文献等)		
	16	育児不安をもつ保護者の支援について			テキストP152～154までを読んでおく。		
	17	DVD視聴、感想文作成			教員作成資料を読んでおく。		
	18	子どもをめぐる問題1～子どもと食事～			子どもの食事や食育に関する新聞記事・ニュースを一つ、読んでくる。		
	19	子どもをめぐる問題2～子ども虐待～			子ども虐待に関する新聞記事・ニュースを一つ、読んでくる。		
	20	子どもをめぐる問題3～子どもとメディア～			子どもとメディア(SNSやゲーム、PC)に関する新聞記事・ニュースを一つ、読んでくる。		
	21	子どもをめぐる問題4～子どもと運動～			子どものスポーツや運動能力に関する新聞記事・ニュースを一つ、読んでくる。		
	22	子どもをめぐる問題5～子どもと貧困～			子どもと貧困に関するもの、子ども食堂に関するもの、いずれかの新聞記事・ニュースを一つ、読んでくる。		
	23	子どもをめぐる問題6～世界の子どもたち～			世界の子どもたちに関する新聞記事・ニュース(遊びに関するもの、生活に関するもの等、ジャンルは問わない)を一つ、読んでくる。		
	24	まとめ、正試験対策			第1回～23回までの授業のノートや資料を読んでおく。		
評価方法	成績評価は①レポート(20%) ②グループワークなどへの参加態度・意欲(10%) ③正試験(70%) 以上3つの観点から、下記表の割合にしたがい評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	◎	○				20%
	グループワーク参加態度・意欲		◎		◎		10%
正試験	◎	○				70%	
履修上の注意	レポート提出がなかった場合は、近畿大学科目終末試験の受験はできない。 8回以上欠席した場合、単位の修得は認められない。						

科目名	社会的養護 I						
科目名(英)	Social care						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山 八保子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	保育所、児童養護施設、児童発達支援センターにおいて、保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	前期の「養護原理」から社会的養護について学習した内容を更に深く掘り下げる。社会的養護(児童養護施設、乳児院など)と家庭養護(里親制度、養子縁組制度など)の違いを理解し、社会的養護を必要とする子どもたちの課題、問題点について、保育士としてどのような支援がもたらされているかを学ぶ。3年次における施設実習に繋がられるような授業を展開する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		施設での子どもたちの生活、保育者の生活指導について、事例より理解できる。	
	○	○		○		施設における自立に向けての支援について説明できる。	
		○				施設の形態について4つ挙げ、説明することができる。	
		○				家庭養護において、里親の種類、役割について説明することができる。	
	○				養子縁組について内容を理解し、説明することができる。		
テキスト・教材 参考図書	・相澤 仁、林 浩康 『社会的養護 I』 中央法規出版 2019年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	科目ガイダンス、施設における日常生活について考える			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	施設における日常生活について、レポートを書く			レポートの資料を準備する		
	3	施設における自立に向けての支援について考える			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	施設における自立に向けての支援について考える			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	施設における自立に向けての支援についてレポートを書く			レポートの資料を準備する		
	6	グループに分かれて調べ学習			調べ学習の資料を準備する		
	7	グループに分かれて調べ学習			調べ学習の資料を準備する		
	8	発表① 児童虐待防止法について、小テスト			発表グループは事前の準備をしておくこと		
	9	発表② 児童の権利条約について、小テスト			発表グループは事前の準備をしておくこと		
	10	発表③ 大舎制、小舎制について、小テスト			発表グループは事前の準備をしておくこと		
	11	発表④ ファミリーホーム、地域小規模児童養護施設について			発表グループは事前の準備をしておくこと		
	12	発表⑤ 里親制度について、小テスト			発表グループは事前の準備をしておくこと		
	13	発表⑥ 特別養子縁組について、小テスト			発表グループは事前の準備をしておくこと		
	14	科目試験対策、まとめ			科目試験に関する資料を準備しておくこと		
15	科目試験対策、まとめ			科目試験に関する資料を準備しておくこと			
評価方法	(1)出席率 (2)授業への参加状況(グループでの調べ学習状況) (3)グループで発表する (4)レポートを2冊提出する (5)小テストを6回実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席率				○		10%
	授業態度				○		10%
	グループ発表	◎			◎		40%
	レポート提出	○	◎		◎		30%
	小テスト	◎	◎				10%
履修上の注意	近大科目試験に合格しないと保育所実習には行けない。						

科目名	健康科学						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川端 いづみ		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	養護教諭		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 健康維持や体力向上にスポーツ活動のもつ教育的意義について学ぶ。 自分の体を知るために、体カテストを実施する。 						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		現代社会におけるスポーツの意義と課題	
	○	○		○		自らのスポーツ、健康に対する考え方を述べる	
	○		○			体カテストを実施する	
テキスト・教材 参考図書	「生涯スポーツ・健康科学」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	健康の概念(WHOの概念)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。		
	2	現代社会の健康阻害要因			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。		
	3	自分の体を知る			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。		
	4	体力の構成要素			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。		
	5	運動の要素・自覚的運動強度			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。		
	6	アルコールパッチテスト			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。		
	7	歯磨き指導			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。		
	8	運動不足の要因			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)講義終了時に小テストを実施する (2)定期テストにおいて評価する						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期テスト	◎	◎		◎		80%
	小テスト	○	○	○	○		20%
履修上の注意	出席が10時間に満たないものは受験資格を与えない。						

科目名	幼児と言葉						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	天野 恵		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	保育園にて主任保育士		
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「言葉」のねらいおよび内容を理解する。 ・子どもの発達における言葉の重要性について理解する。 ・保育者としての言葉遣いを見直し、言葉の楽しさや美しさに気づく。 						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				領域「言葉」のねらいについて説明できる。	
		○		○		子どもの言葉がどのように発達するか、順を追って説明できる。	
	○	○		○		美しい言葉とは何かを追求し、日々の会話のなかで常に振り返ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	保育所保育指針・幼稚園教育要領。その他、適宜教員作成の資料を配布する。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション					
	2	領域「言葉」について考える			保育所保育指針・幼稚園教育要領を精読しておく。		
	3	保育課程・教育課程における領域「言葉」の位置づけ					
	4	言葉遊び			子どものころに遊んだ言葉遊びについてまとめてくる。		
	5	わらべうた遊び					
	6	昔話					
	7	日本語の美しさについて考える			うまれたところの方言について調べてくる。		
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)スクーリングにおける参加状況と意欲点(2)作成する指導案 以上を以下の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	参加状況・意欲			○	◎		70%
	指導案		◎	○			30%
履修上の注意	私語等を慎み、積極的な授業参加を望みます。						

科目名	造形表現(指導法)SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	岡山 直之		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	美術家歴35年		
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	造形表現の技法、身近な素材から教材への応用などを学び、実際の指導場面での実践的な取り組みを通じて表現への理解を深めていく。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○	○	○		造形表現を組み合わせて作品を制作することができる。	
	○	○				造形技法の実技を通して、その指導法を応用することができる。	
	○	○	○	○		子どもたちの発達年齢に応じた遊びを選択し、実際に提供することができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1日目(幼稚園での保育に参加)			子どもたちとの関わり方を学ぶ		
	2	1日目(幼稚園での保育に参加)			子どもたちとの関わり方を学ぶ		
	3	1日目(お店屋さんの開店準備)			子どもたちの安全を考慮した環境づくりに留意する。		
	4	1日目(お店屋さんの開店準備)			子どもたちの安全を考慮した環境づくりに留意する。		
	5	2日目(お店屋さんごっこの提供)			全体を把握することに努める		
	6	2日目(お店屋さんごっこの提供)			全体を把握することに努める		
	7	2日目(振り返りとレポート作成)					
	8	2日目(振り返りとレポート作成)					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する。 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	グループ内での協働・参加状況		○		◎		80%
	レポート作成		○				20%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	教育心理学SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川端 いづみ		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	養護教諭		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	人はどのように学習していくのかということや、どのように人間関係を築いていくのかを学ぶ。また、実際の教育現場でどのように心理学の知見を役立てていけばよいかについて、演習やグループ討論を通じて理解を深める。最終的には、子どもたちへ伝えることを想定しての取り組みを行う。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		グループやクラス内において積極的な協力を実践することができる。	
	○					講義の課題に対して、自らの考えを積極的に発して議論することができる。	
	○	○		○		保育現場にて心理学の視点を活かして、工夫や援助ができるようになることを目指す。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目 オリエンテーション					
	2	1日目 様々なコミュニケーション方法について学ぶ					
	3	1日目 人間関係の構築のため、パーソナルスペースなどについて学ぶ					
	4	1日目 1日目を終えての振り返り					
	5	2日目 障害の理解として手話ソングを学ぶ					
	6	2日目 障害の理解として手話ソングを学ぶ					
	7	2日目 学んだことを子どもたちへ伝えるためのシミュレーションをする					
	8	2日目 2日間の振り返り					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する。 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	グループ内での協働・参加状況		○		◎		60%
	レポート作成		○				20%
	発表への準備と実践の状況	○			○		20%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	環境(指導法)SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	藤崎 久美子		
実施年度	2020年度	実施時期	通年	担当者実務経験	保育園副園長		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	保育園「ひなた村自然塾」での農作業体験を通して、我々が何気なく過ごしている日常について考える機会を設けるとともに、「食」と「環境」についてを深く学び、私たちにおける将来の行動指針や自然や食のあるべき姿についても深く考え、今後の生き方や育児についての学びを得る。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		自然に触れながら、自ら意欲的に参加することができる。	
	○					講義の課題に対して、自らの考えを積極的に発して議論することができる。	
		○				農作業体験と講義の内容を通して「食」と「環境」について改めて深く考えることができる。	
		○				自らの置かれている「環境」について受けている影響についての学びを深めることができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目 田植え体験・畑仕事体験					
	2	1日目 田植え体験・畑仕事体験					
	3	1日目 田植え体験・畑仕事体験					
	4	1日目 講義				実体験と講義の内容を踏まえて、別途にレポートを作成	
	5	2日目 稲刈り体験・畑仕事体験					
	6	2日目 稲刈り体験・畑仕事体験					
	7	2日目 稲刈り体験・畑仕事体験					
	8	2日目 講義				実体験と講義の内容を踏まえて、別途にレポートを作成	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する。 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	行事への参加態度				◎		25%
	講義の参加状況				○		25%
	レポートの内容	◎	○				25%
	ディスカッションの状況		○				25%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	幼児と音楽表現SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中村寛子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	近畿大学九州短期大学特任講師		
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	地域の小学校での音楽会実施を通して、様々な楽器の演奏、合唱、身体表現を身に付ける。また、集団で一つのことを成し遂げる、人の目にさらされる、等のことを通して、自己を客観的に見る力を身に付け、共同作業の重要性、社会性、努力を積み重ねる力、協働でのルール等を総合的に学んでいく。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				体の様々な部位を使用する「ボディパーカッション」を通して、リズム感の育成	
	○					【合唱】を通して歌唱力と聴音カソルフェージュカの育成と協働生の育成	
	○	○				バケツドラム・タンバリンなどの打楽器を使用し、正しくリズムを刻むことができる	
				○		ホスピタリティの育成	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ボディパーカッション					
	2	バケツドラム・タンバリン合奏					
	3	合唱「怪獣のパラード」					
	4	音楽あそび「きつつきおじさん」					
	5	2年生との合同練習					
	6	2年生との合同練習					
	7	音楽会本番					
	8	振り返り・まとめ					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)SCの出席 (2)意欲関心態度 (3)歌唱表現 (4)リズム表現を以下の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	SC出席					○	10%
	意欲、関心、態度				○		30%
	歌唱表現		○				30%
	リズム表現			○			30%
履修上の注意	遅刻(30分以上)、欠席の場合、近畿大学の履修規定により、単位習得不可とする。						

科目名	言葉(指導法)SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	天野 恵		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	保育園にて主任保育士		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人間にとっての言語の役割・言語発達についての理論を理解する。 ・言葉をはぐむには、何が大切かを生活の面、情動交流の面等、多角的な視点で検討する。 ・領域「言葉」を理解し、言語環境の構成・言葉の力を育む指導について検討する。 						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		領域「言葉」の目標・ねらい・内容を理解しており、説明できる。	
	○	○		○		言葉の育つ環境について、知的発達のみならず身体的発達とも関連させ、説明できる。	
	○	○		○		言葉の響きの美しさをさまざま技術を用いながら、子どもに伝えようとする態度をもっている。	
テキスト・教材 参考図書	幼稚園教育要領、保育所保育指針 その他教員作成資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	子どもにとって「言葉」とは何か				保育所保育指針「言葉」の領域に関する記述を読んでおく。	
	2	領域「言葉」の目標・ねらい・内容に関する理解				幼稚園教育要領「言葉」の領域に関する記述を読んでおく。	
	3	子どもの言葉を引き出す保育者の関わり				子どもの言語発達の筋道について調べておく。	
	4	言葉が生まれる背景(情動交流の観点から)				言葉が育つにはどのようなことが必要か、大人との情動交流の観点から考えておく。	
	5	言葉が生まれる背景(身体的発達の観点から)				言葉が育つにはどのようなことが必要か、身体的発達の観点から考えておく。	
	6	保育の中での実践(子どもとの何気ない会話)				初めて子どもに出会ったとき、どのように言葉かけをするか考えておく。	
	7	保育の中での実践(絵本・紙芝居)				絵本・紙芝居の下読みをしておく。	
	8	保育の中での実践(言葉遊び・詩)				言葉遊びや詩を暗唱しておく。	
	9	保育の中での実践(わらべうた遊び)				子どもと遊ぶことのできるわらべうた遊びを3つ用意しておく。	
	10	まとめ(レポート作成)				子どもとのふれあいで学んだことを簡単にまとめておく。	
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)SC中の取り組みに対しての意欲関心態度 (2)保育への取り組み、準備 (3)レポート提出で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	意欲的な参加・発言		◎	◎	◎		40%
	保育への取り組み	◎	◎		◎		40%
	レポート	◎	◎		◎		20%
履修上の注意	遅刻(30分以上)・欠席の場合、近畿大学の履修規定により、単位習得不可とする。						

科目名	教育実習事前事後指導SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	下川 武志		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	幼稚園に教諭として3年間勤務、幼保連携型認定こども園に保育教諭として1年間勤務		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育実習に臨むにあたり、教育実習の目標、意義について理解を深める。また、実習生としてふさわしい態度、学ぶ姿勢を身につけ、保育を実践する力を養う。 ・実習日誌の書き方を知り、実習を想定してシミュレーションする。 						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	○				教育実習の目標・教育課程、意義について理解し内容を説明できる。	
			○	◎		実習生にふさわしい学ぶ姿勢とは何かを考え、実践しようとする。	
		◎		○		豊かな実習が行えるように、歌遊びや手遊びなどレパートリーを増やし研究する。	
	○	◎				具体性のある日誌の書き方を知り、実践しようとする。	
テキスト・教材 参考図書	各自作成した部分自習指導案、その他適宜教員作成の資料を配布する。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション、幼稚園教育要領について理解を深める			教育課程総論で学んだことを復習しておくこと。		
	2	部分実習指導案について			自分なりに検討を加えた指導案を持参すること。		
	3	実習の諸注意			教育実習指導で学んだ実習生として望ましい態度等について、復習しておくこと。		
	4	実習に必要な書類の確認			実習園の概要、実習の日程について再度、各自確認しておくこと。		
	5	履修カルテの作成			実習に向けた目標を各自、発表できるようメモしておくこと。		
	6	紙芝居の演じ方			自分の好きなおはなしを見つけておくこと。		
	7	手遊びのレパートリーについて			できるだけ多くの手遊びができるよう、各自レパートリーをもっておくこと。		
	8	歌唱指導について			実習園からいただいた課題曲は、弾き歌いできるように練習しておくこと。		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	①履修カルテの記入状況(目標、自分自身の課題など) (50%)、②手遊び、歌唱指導などの実技 (50%) の割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	履修カルテの記入状況	◎			○		50%
	実技			○	◎		50%
履修上の注意	本科目は教育実習Ⅰ・Ⅱの実習要件科目である。						

科目名	教育実習 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	80時間	担当者	下川 武志		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	幼稚園に教諭として3年間、幼保連携型認定こども園に保育教諭として1年間勤務		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	実習までに学んできた子どもの発達に関する知識、幼児教育の原理・原則を念頭に置きつつ、幼稚園という教育現場の中で教育実践を行うことを目的とする。本実習においては、子ども理解を深めるために必要な教師の働きを知ること、また自身で作成した実習指導案の実践及び省察を行うことを主眼とする。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					幼稚園の教育内容、機能について理解し、説明することができる。	
			○			実習の中で子どもたちと積極的にコミュニケーションを図り、子ども理解を深めていく。	
	○					幼稚園教諭の職務内容や役割について理解し、実習記録に細かく記述することができる。	
	○					実習で体験したこと・感じたこと・分析したことを、実習記録に確実に記述することができる。	
	○					実習指導案をもとに、自分で考えた保育内容を実践することができる。	
テキスト・教材 参考図書	適宜、教員作成の資料を配布する。						
授業計画	授業項目・内容			授業外学修指示			
	10 日 間	<p>教育実習 I においては、以下に示す4つの視点を大切にしながら、実習を行う。</p> <p>①幼稚園における1日の生活・活動の流れと生活・活動内容について理解する。</p> <p>②子どもと積極的に関わる中で、自分なりに子どもの行動の意味を考える。</p> <p>③幼稚園教諭の職務内容について理解する。</p> <p>④子どもの活動・行動に対する幼稚園教諭の働きかけについて理解する。</p> <p>実習を行う中で、疑問点などがあつたら指導教諭・実習担当教諭に積極的に質問し、実りの多い実習となるよう努力すること。</p>			<p>・実習で行う手遊び、歌遊び、ゲームなどのレポーターは、日ごろから増やしていくことができるようアンテナを張っておくこと。また、リハーサルも行っておく。</p> <p>・配属クラスの子どもの発達段階に応じた指導計画を作成すること。</p> <p>・実習が終了したらただちに事後レポートを作成し、自分自身の課題を明らかにする。その課題を基に、その先につながる実習、就職活動についても考えていく。</p>		
評価方法	評価は①実習日誌の記述内容 50%、②指導案の記述内容(振り返りや次への課題も含む) 30%、③実習園による評価 20% で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習日誌の記述内容	◎					50%
	指導案の記述内容 (振り返りや次への課題も含む)	◎			○		30%
	実習園による評価	◎					20%
履修上の注意	教育実習 実習要件科目を取得しておかなければ実習は認められないので、各自、近畿大学学生便覧を確認し、要件科目を把握しておくこと。						

科目名	音楽表現 I -②						
科目名(英)	Music Performance I						
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	中村寛子/小賀直美/石丸真理子/木下美智子/長谷川裕子/藤田一美/古田淳子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	近畿大学九州短期大学特任講師(中村)		
対象学科・学年	こども未来学科1年生						
授業概要	保育の現場では、音楽は必須のものとなる。朝登園後「おはようの歌」、昼食には「お弁当の歌」、お昼寝時には「お休みの歌」、降園時には「お帰りの歌」、その他にも自然や季節を感じて感性を高めるために「様々な季節の歌」、「遊びうた」、誕生会等の行事に行進を促す「行進曲」等。その音楽をすべて、保育士が把握をし、ピアノで伴奏していかななくてはならない。この授業ではできる限り沢山の曲を歌い、ピアノ演奏する。そのために必要な技術、知識を身に付けるものである。1年生の間は、とにかくピアノになれること、ピアノを嫌いにならないこと、楽譜を読めるようになること、正しい音程で歌えるようになること、等を目標にして授業を進める						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○				音楽の基本知識となる、楽典の習得(楽譜、音符や休符、拍子、記号等の知識)		
		○			ピアノ演奏実技の習得(正しい運指、テクニック、左右の手のスムーズな動き、10本の指の独立した動き)		
		○			声楽の基本実技の習得(正しい音程、呼吸法、リズム等)		
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・近畿大学九州短期大学発行/ピアノ教本、声楽教本 ・ドレミ楽譜出版社刊/こどもの楽典 ・チャイルド社発行/こどものうた100 ・講師作成の楽譜集(ファイル保管) 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	・バイエル66番				・バイエル66番	
	2	・バイエル70番				・バイエル70番	
	3	・虫の声				・虫の声	
	4	・こぎつね				・こぎつね	
	5	・どんぐりころころ				・どんぐりころころ	
	6	・いもほりのうた				・いもほりのうた	
	7	・やきいもグーチーパー				・やきいもグーチーパー	
	8	・ミッキーマウスマーチ				・ミッキーマウスマーチ	
	9	・雪のぺんきやさん				・雪のぺんきやさん	
	10	・雪				・雪	
	11	・ジングルベル				・ジングルベル	
	12	・きよしこのよる				・きよしこのよる	
	13	・お正月				・お正月	
	14	・さよならのうた				・さよならのうた	
	15	・まめまき				・まめまき	
	16	・練習					
	17	・ハッピーバースデー				・ハッピーバースデー	
	18	・おててをあらいましょう				・あててをあらいましょう	
	19	・練習				・練習	
	20	・練習				・練習	
	21	・練習				・練習	
	22	・練習				・練習	
	23	・練習				・練習	
24	後期試験						
評価方法	授業の課題曲をすべて合格しなければ、合格基準を満たさないものとする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○		○		80%
小テスト	○	○		○		20%	
履修上の注意	前期に比べて、後期は曲の難易度が急に上がるが、日々の練習を欠かさないように。計画的な練習ができるようにする。						

科目名	合奏 I						
科目名(英)	Ensemble						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	高松聡美/中村寛子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	演奏家歴34年現在も活動中(高松)		
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	<p>保育の現場において必要不可欠な音楽。幅広い知識とそれを応用できる力が求められる。この授業では保育現場で活用できる子どもの曲や打楽器を中心に講師のオリジナル編曲を用いながらクラス単位で協力して取り組む。合奏を通して社会性を身に付ける。「コミュニケーション力」「チーム力」「忍耐力」「協調性」「人を思いやる心」などを育む。また資料、楽譜、楽器等自分の物、公共の物を大切にすることを身に付ける。前期で培ったチームワークを生かして更に効率よく練習ができるようになる。</p>						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
					目標		
					○ 自分の資料、楽譜に記名、ファイルに収めきちんと管理することができる。		
					○ 使った楽器を元通りに片づけることができる。		
			○		整列する、静かにする等練習の姿勢を素早く整えることができる。		
			○	できないところを繰り返して練習に取り組むことができる。			
		○	○	クラスメイトと協力し合奏としての作品を仕上げるすることができる。			
テキスト・教材 参考図書	中村寛子編曲集 高松聡美編曲集						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	後期について一取り組み曲など全体像を把握する			クラスのチームワークを整えておくこと		
	2	練習一楽譜を読む パート分けをする 役割分担を決める			楽譜をなくさないようにすること		
	3	練習一タンバリンなど小物楽器を中心とした合奏の練習			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	4	練習一通せるようになる			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	5	練習・レベルアップー強弱をつける テンポ感の調整 暗譜			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと 暗譜をすること		
	6	練習・レベルアップー全体の流れの調整			発表することをイメージしてクラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	7	練習・レベルアップー動きを入れる等の総仕上げ			発表することをイメージしてクラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	8	練習・レベルアップー動きを入れる等の総仕上げ			発表することをイメージしてクラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)資料・楽譜の管理ができていないか→提出物。(2)授業中の態度・意欲。(3)作品発表を実施する→実技試験。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品			○			30%
	授業態度				◎		40%
	資料・楽譜・楽器管理					○	30%
履修上の注意	クラスで声を掛け合って普段から練習する習慣をつけること。						

科目名	教育実習指導 I - ②						
科目名(英)	Guidance to Teaching Practice(Kindergarden) I - ②						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	下川 武志		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	幼稚園に教諭として3年間、幼保連携型認定こども園に保育教諭として1年間勤務。		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	前期での幼稚園観察実習や教育実習要件科目(教育原理、教育課程総論など)における学びを基に、自分がデザインした保育を実践できるよう、指導案の書き方、保育における保育者の配慮等について学習する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	○				実習における指導案を書く目的を理解し、各々の実習課題に応じた指導案を記述できる。	
	◎			○		実習において記録を書く意味を理解し、日々の実践に役立てることのできる記録を記述できる。	
			◎	○		保育における保育者の意図を理解し、子どもに対して適切な援助を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	『新訂 知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 第2版』石橋裕子・林 幸範編著 『幼稚園教育要領解説書』『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館 その他、適宜教員作成の資料を用いる。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	実習要件、免許取得に必要な科目、実習観察のポイント			『近畿大学九州短期大学通信教育部 学習便覧』Ⅲ. 実習についての箇所を読んでおくこと。		
	2	実習での心得について			テキストP5～9までを読んでおくこと。		
	3	実習前面接について			教員作成資料を読んでおくこと。		
	4	実習に必要な書類など、実習について2年生の体験談			自分の履歴(いつ中学校を卒業したか、など)について確認しておく。(テキストP22～23も読んでおくこと。)		
	5	DVD視聴(幼稚園教育実習)			テキストP152～157までを読んでおくこと。		
	6	実習記録の書き方について<基礎>			テキストP158～165までを読んでおくこと。		
	7	実習記録の書き方について<1日の流れについて>			テキストP198～203までを読み、認定こども園での実習もイメージしておくこと。		
	8	実習記録の書き方について<考察について>			テキストP266～267を読んでおくこと。		
	9	事前実習の報告会			事前に配布する報告書の内容に沿って、報告書をまとめておくこと。		
	10	指導案の書き方について			テキストP166～171までを読んでおくこと。		
	11	指導案記入に伴う子どもの姿の捉え方について			教員作成資料を読んでおくこと。		
	12	指導案作成			実習園に示されている部分実習について、自分なりに案を考えておくこと。		
	13	2年次幼稚園教育実習 アポイントについて			テキストP14～23までを読んでおくこと。		
	14	お土産保育について			テキストP214～263までを読んでおくこと。		
15	実習前書類、履修カルテ等確認			どんな目的をもって実習に臨むのか、今一度、自分でよく考え整理しておくこと。			
評価方法	評価は以下の表に従い、①授業に対する取り組み(グループワーク、発表など)30%、②指導案作成30%、③指導案以外の提出物(実習オリエンテーション報告書、実習報告書、教育実習事後レポートの内容等)40%の割合で評価する。提出物は必ず、決められた期限までに提出すること。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業に対する取り組み		○		◎		30%
	指導案	○	◎				30%
	指導案以外の提出物(実習オリエンテーション報告書、実習報告書、事後レポートなど)	◎	○				40%
履修上の注意	出席が10回に満たないものに単位の修得は認めない。 この科目は、教育実習 I 履修に向けた準備のための科目である。						

科目名	レクリエーションⅡ						
科目名(英)	Recreation						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	添田 譲二		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	現代社会の中で、余暇やレクリエーションのもつ意味も、単なる気晴らしではなく充実した人生づくりの基盤の一つへと変化してきている。子どもたちにとって遊びそのものが生活の一部であると同時に、遊びを通して協調性や思いやりなど人間形成にも影響力をもっていると考えている。このような中でレクリエーションがもつプラスの価値をどのような支援体制で展開すればよいかを解説する。そこで、遊びを体験しながら遊びの必要性や支援方法を理解することを目標に授業を展開していく。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					レクリエーションの必要性を理解して説明できるようになる	
		○		○		レクリエーションの多くの素材を覚えて支援することができる	
		○		○		コミュニケーションの手段の一つとしてレクリエーションの素材を使い分けることができる	
テキスト・教材 参考図書	楽しい遊びの商店街 プリント資料【配付資料】						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	レクリエーション支援について(理論)					
	2	レクリエーションの素材の体験(ゲーム)					
	3	レクリエーションの素材のアレンジ方法(ゲーム遊び)					
	4	信頼関係づくり・ホスピタリティ(理論)					
	5	レクリエーションの素材体験(創作活動)					
	6	グループワーク・トレーニング①(素材別遊び創作)					
	7	グループワーク・トレーニング②(素材別遊び創作)					
	8	グループワーク・トレーニング③(素材別遊び創作)					
	9	楽しむための目標設定について(理論)					
	10	コミュニケーションについて体験活動(説得・納得)					
	11	レクリエーションの素材の体験(折り紙の世界)					
	12	レクリエーションの素材の体験(伝承あそび①)					
	13	レクリエーションの素材の体験(伝承あそび②)					
	14	レクリエーションの素材体験(思い出づくりのレクリエーション)					
	15	レクリエーションⅡのまとめ(理論)					
評価方法	授業中の課題に対して個人として取り組む。 グループを単位として、レクリエーション支援の企画をする。 授業の中で学んだレクリエーション情報をアレンジして、演習を通して提供する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技演習	○	◎		○		20%
	授業中の課題(個人)		○		◎		50%
	授業中の課題(グループ)		◎		○		30%
履修上の注意	心にゆとりをもち、さわやかな笑顔で受講すること。 授業内容を楽しむ気持ちをもって受講すること。 目を輝かせ動作はハツラツとすること。						

科目名	カウンセリング概論						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	姫田 尚子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	カウンセラーとしてカウンセリングに従事		
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	「心を科学的に解明する学問」である心理学を学ぶことによって、他者や自分自身を論理的かつ客観的に理解することができる。また、人間関係や仕事の悩み、心のトラブルなど、日常生活の様々な場面での問題を心理学理論を活用し解決するスキルの習得を目指す。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					カウンセリングとはどういうものかを理解し、説明できる。	
	○					心理学の大きな流れを理解し、説明できる。	
	○					現代のカウンセリングに影響を及ぼした人物を知り、その理論を説明できる。	
	○			○		心理学理論を問題解決に活用できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	●実務教育出版「TA TODAY」 ●西東社「心理学の本」 ●学事出版「人間関係スキルアップワークシート」 ●誠信書房「交流分析による人格適応論」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	カウンセリング概論					
	2	心理学概論					
	3	ロジャーズ・マズロー					
	4	フロイト・ユング					
	5	アドラー(1)					
	6	アドラー(2)					
	7	自分を知ろう(1)					
	8	自分を知ろう(2)					
	9	気持ちはどこからくるの?～ABC「こころの法則」					
	10	いろいろな考え方をしてみよう					
	11	認知を変えてストレスを小さくしよう					
	12	いろいろなところを使ってみよう					
	13	いろいろな可能性を考えよう					
	14	人格適応論					
15	まとめ						
評価方法	1) 毎回の授業の最後に「授業で理解したこと・感じたこと」を記入し提出 2) 演習への取り組みの姿勢 3) 定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	演習	○	◎		◎		20%
	理解したこと・感じたこと	◎	○				10%
履修上の注意							

科目名	総合演習 I					
科目名(英)	麻生医療福祉専門学校 シラバス					
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	下川 武志	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	幼稚園に教諭として3年間、幼保連携型認定こども園に保育教諭として1年間勤務。	
対象学科・学年	こども未来学科 1年					
授業概要	履修している保育や教育に関するさまざまな科目を関連付けて学び、クラスメイトとの対話や協働を通じて自分自身の保育観を醸成していくことを目的とする。					
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
			◎	○		保育に関する実技(手遊び、絵本の読み聞かせ等)に関する情報を共有し合い、実践することができる。
		○		◎		クラスメイトと協力しながら、保育者としての資質を高めていく。
		○		◎		教育実習 I の振り返りを行い、自身の課題を見つけ次回の実習に対する意欲を高める。
テキスト・教材 参考図書	適宜、必要な資料を配布する。					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	教育実習 I 事前実習に向けた準備①			教育実習指導のテキストの中で、自分が必要と思った箇所を読んでおくこと。	
	2	教育実習 I 事前実習に向けた準備②			教育実習指導のテキストの中で、自分が必要と思った箇所を読んでおくこと。	
	3	教育実習 I に向けた準備①			教育実習指導のテキストの中で、自分が必要と思った箇所を読んでおくこと。	
	4	教育実習 I に向けた準備②			各自、実習園からいただいている部分実習の課題や指導案を案の段階でよいので、記入したり準備しておくこと。	
	5	教育実習 I に向けた準備③			各自、実習園からいただいている部分実習の課題や指導案を案の段階でよいので、記入したり準備しておくこと。	
	6	実習報告会①			実習報告書を項目に従い、記入しておくこと。	
	7	実習報告会②			実習報告書を項目に従い、記入しておくこと。	
	8	実習報告会③			実習報告書を項目に従い、記入しておくこと。	
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
評価方法	①授業中の意欲や取り組みに対する態度(30%) ②実習報告会での発表(70%) 以上、2項目において評価する。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	意欲・態度		○		◎	
	実習報告会発表		◎		○	
履修上の注意	出席が6回以上なかった場合は、単位取得ができない。出席や遅刻・早退等については各自、学生便覧をよく読んでおくこと。					

科目名	ペン字 I -②						
科目名(英)	Penmanship II						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	入江 陽子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	書道講師36年		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者として、日常生活における硬筆・毛筆の基礎力をつける ・正しいペンの持ち方・姿勢を守り書写する事により集中力をつける 						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					正しい言葉使いで書写する事が出来る	
			○			書式に従って、美しい文字で書写する事が出来る	
			○			正しいペンの持ち方・姿勢で書写する事が出来る	
				○		集中力を持って取り組む事が出来る	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ペン字の基本－漢字の復習			ペン書きに慣れておくこと		
	2	ペン字の基本－手紙文・平仮名の復習			漢字楷書の復習をしておくこと		
	3	実用書(筆ペン)－用筆の練習・氏名			平仮名の復習をしておくこと		
	4	実用書(筆ペン)－芳名帳の練習			筆ペン用筆の復習をしておくこと		
	5	実用書(筆ペン)－のし書きの練習			氏名の練習をしておくこと		
	6	実用書(筆ペン)－はがきの表書きと裏書き			のし書きを仕上げしておくこと		
	7	実用書(筆ペン)－年賀状と寒中見舞い			年賀状を用意しておくこと		
	8	ペン字のまとめ－期末試験			今までのプリントをまとめておくこと		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1) 授業最終回で実施する期末試験を実技評価とする(持込可)						
	(2) 小テストを意欲点として評価する 以上を下記の観点・割合で評価する。						
	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(授業中)	○		◎			80%
小テスト				◎		20%	
履修上の注意	黒の水性ボールペンを用意 はがきを用意 試験時は今までのプリントを持ち込み可とするのでまとめておくこと						

科目名	一般教養 I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	岩下 隆司		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	社会人スクール講師3年 専門学校教員21年		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで習ってきた漢字を復習し、漢字を書く習慣を身に付ける ・漢字の正しい使い方を習得し、実習日誌等で適切に漢字を使った文章を書けるようになる 						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					保育の現場でよく使う漢字を習得する	
	○					日常よく使用する常用漢字を習得する	
テキスト・教材 参考図書	実教出版 一般教養 & SPI2 わかば社 保育の基本用語						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	プリント「実習生による事前準備(読み→漢字)」					
	2	プリント「実習生による事前準備(読み→漢字)」					
	3	プリント「実習生による事前準備(漢字→読み)」					
	4	確認テスト					
	5	漢字プリント(常用漢字)①					
	6	漢字プリント(常用漢字)②					
	7	漢字プリント(常用漢字)③					
	8	漢字プリント(常用漢字)④					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	確認テストおよび後期末正試験で評価 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					40%
	小テスト	◎					40%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、単位を付与しない。						

科目名	実習実務						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	上村 仁美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	児童養護施設にて保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	教育実習 I の事前実習、単位実習に向けて、また、これから先の実習全般にむけて必要とされる園訪問の際のマナーに感ずる事、言葉使い、身だしなみ、立ち振る舞いなどを実践的に身につけ、学生が意欲的に実習に向かえるような学習を行う。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					実習初日の際の正しい園の訪問の仕方、自己紹介の仕方が身につけられる。	
	○		○			校内で行う実習前面接の練習を通して実習生としてふさわしい立ち振る舞いを身につけられる。	
				○		実習生として求められる姿勢・態度について正しく理解する事が出来る	
	○		○			TPOに応じた言葉使い、身だしなみ、立ち振る舞いを実践する事ができる	
			◎			実習生として、実習中に使える自己紹介カードなどの教材を作成し、それを使い発表ができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業オリエンテーション 夏休み課題確認 単位実習に向けて				夏季休暇課題 エプロンシアターをもってくる	
	2	実習中のマナー 立ち振る舞い 挨拶					
	3	実習前面接に向けて (面接実技 質問内容など)				3年生との合同授業	
	4	実習前面接に向けての立ち振る舞い 実習中の言葉使い					
	5	自己紹介カード作成				製作に必要な材料を持参する	
	6	自己紹介カード発表				自己紹介カード持参	
	7	実習生として自分がどうあるべきか考える					
	8	幼稚園実習に向けて					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	①自己紹介カード(提出物)②授業中の発表内容③実践への取り組み④出席回数を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はS(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	自己紹介カード(提出物)		○	◎			40%
	発表内容	◎					40%
	取り組み				◎		10%
	出席				○		10%
履修上の注意	出席が6回未満の者には単位を付与しない						

科目名	GCB I						
科目名(英)	Global Citizen Basic I						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	下川 武志		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	幼稚園に教諭として3年間、幼保連携型認定こども園に保育教諭として1年間勤務		
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	世界が自立しながらも、互いに協力し合うことで成り立っていることを認識し、恵まれた人生を過ごしていることに感謝し、地域・国家の発展に貢献できる人材を育成する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○		◎			身の回りの問題について、自ら考え改善策を創造する。	
	○		◎			グループワークや話し合いを通して、積極的に活動に参加する。	
			◎	○		学生生活で立てた「志」を日々の生活の中で、実践する。	
テキスト・教材 参考図書	『グローバルシティズンベーシック I ～感謝と思いやりの教育～』 学校法人麻生塾						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	グローバル・シティズンを目指そう。			テキスト該当箇所を読んでおくこと。		
	2	「協働」の態度を持った学生生活			テキスト該当箇所を読んでおくこと。		
	3	よりよい人間関係の構築に向けて			テキスト該当箇所を読んでおくこと。		
	4	マナーの本質 I			テキスト該当箇所を読んでおくこと。		
	5	マナーの本質 II			テキスト該当箇所を読んでおくこと。		
	6	グローバル・シティズンとしての日常			テキスト該当箇所を読んでおくこと。		
	7	グローバル・シティズンとしての目標			テキスト該当箇所を読んでおくこと。		
	8	グローバル・シティズンとしての「志」に向けて			テキスト該当箇所を読んでおくこと。		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	①毎授業後の感想レポート(70%) ②最終回授業において、自分自身の「志」について発表(30%) 以上、2項目において評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	感想レポート	◎				○	70%
	発表		○			◎	30%
履修上の注意	出席が6回以上なかった場合は、単位取得ができない。出席や遅刻・早退等については各自、学生便覧をよく読んでおくこと。						

科目名	交流ゼミ I					
科目名(英)						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中畔政憲・上村仁美・下川武志	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	こども未来学科 1年					
授業概要	こども未来学科の全学年の学生を混合し、グループを構成。そのグループ内で学年を超えた交流を図る。最終的には、当科で実施する「交流会」に向けての準備を行っていく					
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
				○		積極的な姿勢を持って、他学年の学生やグループ内の学生とコミュニケーションを図る事ができる
				○		物事の段取りを修正しながら臨機応変な対応を行いつつも計画的に行事を実行する事ができる
				○		物怖じする事なく、積極的にレクリエーションに参加する事ができる
				○		グループの中心となり、レクリエーションを企画・運営する事ができる
				○		人間同士の関わりの中で、人間関係の調整を図ることができる
テキスト・教材 参考図書	なし					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	3学年全体でのレクリエーション				
	2	3学年全体でのレクリエーション				
	3	グループ内でのレクリエーション				
	4	こども未来学科「交流会」に向けての準備				
	5	交流会への実践				
	6	交流会への実践				
	7	交流会への実践				
	8	交流会への実践				
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
評価方法	ゼミに臨む姿勢・態度が第一優先である。評価は出席状況にて「R」(履修)評価とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	姿勢・態度				◎	
						評価割合
						100%
履修上の注意	2/3以下の出席状況にて、単位習得不可とする。					